

野田中学校は、リーディングスキルとともに歩んでいる。すなわち、読解力向上に取り組んでいる。そこから学力向上を目指している。授業改善や学力向上に向けての切り口がリーディングスキルである。

福島県には、リーディングスキルの勉強会がある。月に1回、定期的に郡山で開催されている。F-1 a b oである。オンラインにより他県からの参加もある。今までに、この会で3回、発表をさせていただいた。最近では、8月下旬である。

その場で、話の流れから、「青本を出しませんか」と口走ってしまった。リーディングスキルにおけるバイブルと言え、新井紀子先生の白本と赤本である。それに対抗するわけではないのだが、白、赤ときたら青というだけである。したがって、緑でも何でもいい。

F-1 a b oでは、毎回、数名の発表がある。その中には、ぜひ多くの先生方に紹介したい実践がある。それを本にしませんかという提案である。リーディングスキルでは、リーディングスキルテストでの6分野7項目の用語を使う。これが、現場の先生方にとっては、高いハードルとなる。自分の授業に取り入れるのが容易ではない。表面的な表層的な理解ではうまくいかない。じっくりとリーディングスキルと向き合う必要がある。一度、向き合い、自分なりに理解さえすれば、前に進んでいくことができる。

このようなことを、子どもたちの前に立ち、実際に授業を進める現場の先生方はやらなくてはならない。だが、現実はそう甘くはない。そこで、先生方にとっての羅針盤となる手引書のようなものが欲しくなる。それが、「青本」である。せっかくのすばらしい実践を、F-1 a b oの中にとどめておくのはもったいない。F-1 a b oは、本日、12月24日で46回を数える。そろそろ一つの形にまとめてもいいのではという提案である。まとめることでこれからの課題も見えてくる。

F-1 a b oの傾向として、一度ではなく、何度か発表の任を担っている方が多い。リーディングスキルを理解し、自分で前に進むことができている方である。そのような方の実践には力がある。説得力がある。授業が変わり、子どもたちも変わってきていることだろう。子どもたちに力をつけることができる実践である。その力の中核をなすのが読解力である。汎用的な基礎的読解力である。「読解力が子どもを救う」のである。

リーディングスキルには、先進地区・先進校がある。それらの実践内容が世に出ることには大きな意義がある。福島県は、全国的に見て、フロントランナーの一つである。ぜひ、福島から全国に「青本」を通して発信できればと思う。